

第3回 2025年デフリンピック大会に係る 大会準備連携会議 議事次第

日時：令和5年5月17日 14:00～

場所：東京都庁第一本庁舎 42階
特別会議室 B

1. 挨拶
2. 運営委員会における検討状況
2023年度 デフリンピック運営委員会の事業計画案について
3. 大会開催基本計画について
4. 令和5年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組について
5. 意見交換

1) 2025大会エンブレムの制作方針

○大会エンブレムに、大会開催の意義を込めるため、以下のように制作したい

◆きこえない人を制作の主役に（きこえない人がデザイン案を作成）

→デフリンピックに際し、デフアスリートだけでなく、他のきこえない人にも光をあてたい

◆次代を担う若者の参画

→次代を担う若者が作り、次代を担う若者が決める形にしたい

◆きこえない人ときこえる人が協働する

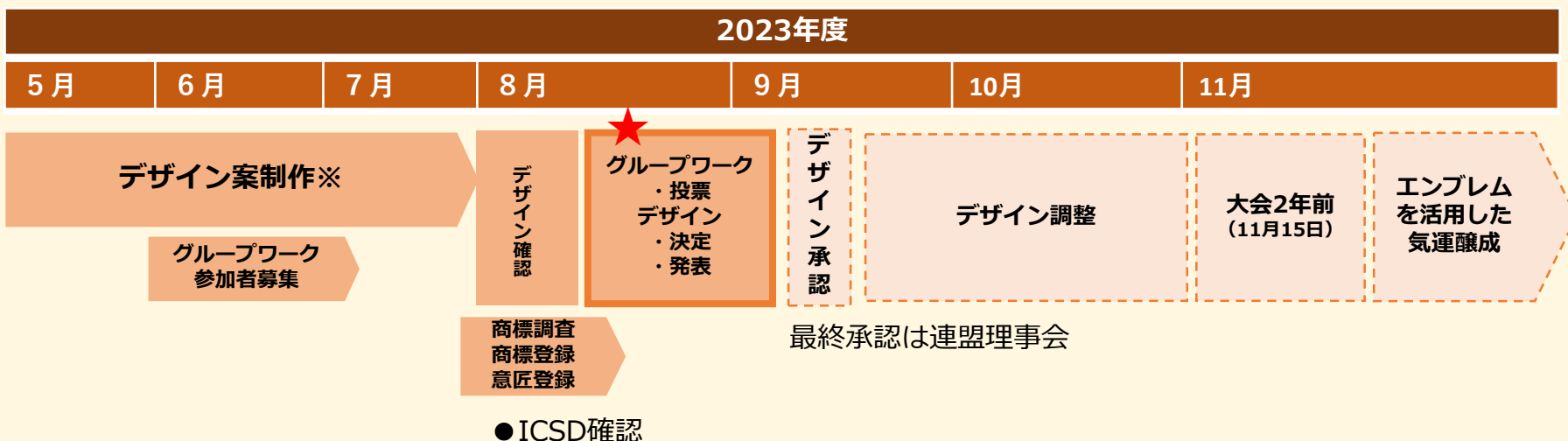
→きこえない学生と都内の中高生（ろう学校含む）の子どもたちが、エンブレムのデザイン案について意見交換ができる場を設けることで、目指すべき共生社会を体現する作成プロセスとしたい

※筑波技術大学・・・国内で唯一聴覚障害者、視覚障害者のための技術系の国立大学法人。きこえない学生が在籍する産業技術学部が協力。

➡大会エンブレムが、国民への共生社会実現に向けたメッセージとなるようにする

➡エンブレム制作にあたり、国立大学法人筑波技術大学（※）及び東京都と連携・協力し、進めていく

2) スケジュール案



1) デフリンピック・フェスティバル（仮称）案

○全国へ2025年デフリンピックへの気運醸成を推進するため、以下のように進める

目 的：全国各地でイベントを実施することで、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知の向上を図り、ひいては2025年デフリンピックへの気運醸成を推進する

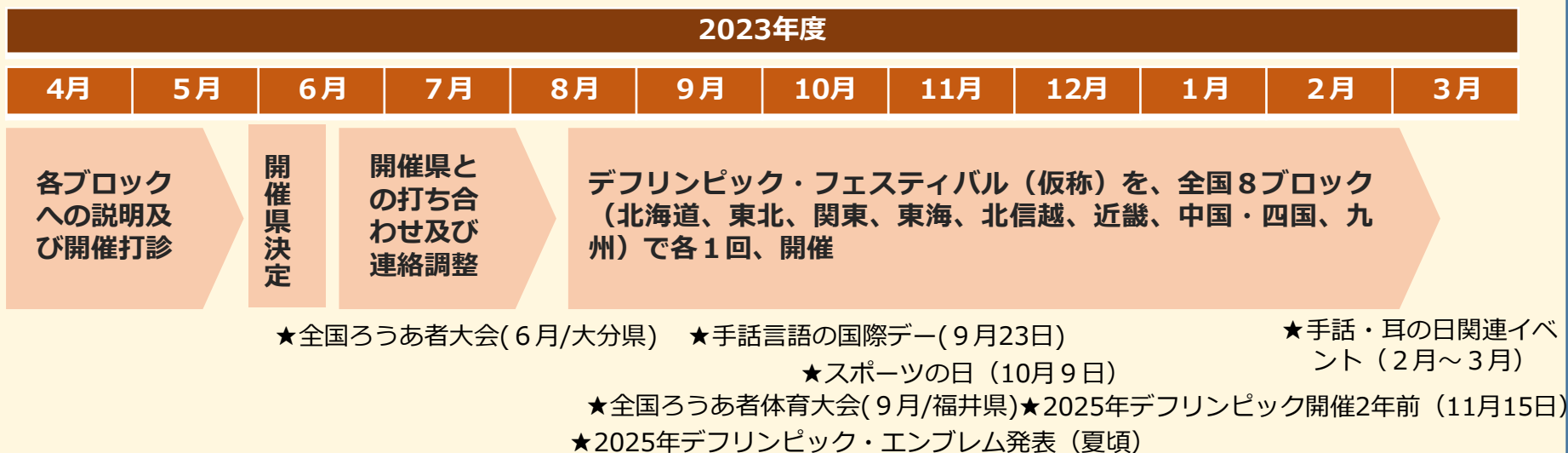
実施個所：全国8ブロック（北海道、東北、関東、東海、北信越、近畿、中国・四国、九州）

イベント内容：啓発映画上映、デフスポーツまたはパラスポーツ体験、講演またはパネルディスカッション、パネル展示など

➡きこえない人ときこえる人との協働によるイベントを通して、共生社会実現に向けたメッセージとなるようにする

➡地域の社会資源（アスリート、当事者団体、支援団体、自治体、スポーツ関係団体等）との連携

2) スケジュール案



3) イベント内容のイメージ

- イベントは、2025年デフリンピック招致プレゼンで掲げた大会コンセプト1.「デフアスリートを主役に、そしてデフスポーツの魅力を伝え、人々や社会とつなぐ」を推進する
- 開催地の市民、中高生、アスリート、スポーツ関係者、100人程度が参加
- イベント内容は「①みる ②する ③ささえる」の3つの柱とする

(イベント進行案)

●みる



- (案) デフリンピック啓発映画の上映
- (案) デフリンピックパネルの展示
- (案) デフアスリートまたはパラアスリートの講演

●する



- (案) デフスポーツの体験
- (案) パラスポーツの体験

●ささえる



- (案) デフスポーツの支援者（監督、コーチ、手話言語通訳者、トレーナー等）のパネルディスカッション
- (案) デフアスリートやスタッフの壮行会または報告会

イベントを通して、全国各地に
デフスポーツやデフリンピックを知る、
デフスポーツを体験し、デフリンピックへの夢の機会の創造、
デフアスリートを支える人や団体、企業等を増やす

1) 社会的・文化的プログラムの検討

デフリンピック規約 DG29. 宿泊施設及び詳細

組織委員会は、選手その他参加者がレクリエーションプログラムを利用できるようにする。このプログラムには、開催都市のための社会的・文化的プログラムに関する情報を含む。

- 外国からの選手、観客等だけではなく、全国への気運醸成に資するプログラムとなるよう、検討に着手
 - ➡きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者、東京都等と連携・協力し、プログラムの調査・検討を進める。
 - ➡きこえない人の文化芸術活動や手話言語文化を国内外の人に触れてもらうことを機に、“誰一人取り残さない世界（SDGs）”の実現につなげる。



デフリンピック運営委員会 名簿

(2023年5月17日現在)

委員長

| | |
|-------|---------------------|
| 久松 三二 | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事 |
|-------|---------------------|

副委員長

| | |
|--------|----|
| 薬師寺 道代 | 医師 |
|--------|----|

委員

| | |
|-------|------------------------|
| 石原 保志 | 国立大学法人 筑波技術大学 学長 |
| 延與 桂 | 公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長 |
| 太田 陽介 | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事 |
| 畑中 淳子 | 弁護士 |
| 早瀬 久美 | デフリンピック選手 |
| 横山 英樹 | 東京都生活文化スポーツ局長 |

事務局長

| | |
|-------|------------------|
| 倉野 直紀 | デフリンピック運営委員会 事務局 |
|-------|------------------|

大会開催基本計画について

1 大会開催基本計画の策定

- 開催基本計画は、大会ビジョンをはじめ、競技会場、宿泊・輸送など、大会の実務面での計画から構成され、全日本ろうあ連盟、東京都、スポーツ文化事業団の三者で作成
 - 大会運営については、障害当事者の視点や過去大会の知見を計画に反映させるため、「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議(仮称)」を事業団内に設置
- ユニバーサルコミュニケーションや会場の情報保障、子供の参画などに関する検討状況も反映したうえで、大会 2 年前の機会に公表

2 作成スケジュール

8 月頃

大会概要公表

11 月頃

大会開催基本計画公表

(参考) デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議(仮称)

委員(案)

○ デフリンピアン等のアスリートで構成

| | 区 分 | 委員選定の考え方 |
|---|-----------------|---|
| 1 | デフリンピアン (2名) | デフリンピックへの参加経験や社会活動等を通じて得られた知見や、デフアスリート当事者としての意見を伺い、大会・競技運営に反映 |
| 2 | オリンピック (1名) | オリンピックへの選手としての参加や、運営に参画した経験からの知見を活かした意見を伺い、大会・競技運営に反映 |
| 3 | パラリンピアン (1名) | パラリンピックへの選手としての参加や、運営に参画した経験からの知見、障がい者視点での意見を伺い、大会・競技運営に反映 |

※今後、大会運営へのアドバイスをいただける方に適宜オブザーバーとして参加いただくことも検討

令和5年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組について

大会開催時の到達点

- スポーツが本来持つ、喜びや感動、人とのつながりなどを誰もが享受できるスポーツムーブメントを創出
- デジタル技術などを活用し、言語や障害など、多様なバックグラウンドを持つ人々が共に生きる社会づくりに貢献

【気運醸成及びユニバーサルコミュニケーションのステップ(案)】

| | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度(開催年度) |
|---------------------|-------------|--------------|--------------|
| 気運醸成 | 大会を「知ってもらう」 | 大会の「ファンを増やす」 | 大会に「参画する」 |
| ユニバーサル コミュニケーション | 先進技術の開発促進 | 試験活用 | 本大会での活用・社会実装 |

2023年度の主な取組(予定)

- **特設WEBサイト**
大会概要や国内外のデフアスリート紹介、分かりやすく手話を学べるコンテンツ等、幅広い情報を発信する特設WEBサイトを開設
- **デフリンピック2年前の取組**
デフリンピックの認知度向上に加え、共生社会への理解を促進する取組を実施
- **大会の魅力発信動画**
デフリンピックのPR動画を制作し、様々な媒体を活用して国内外へ広く発信
- **ユニバーサルコミュニケーション**
展示会や各種イベント等の場を通じた、デジタル技術のPRや実証、新たな技術開発を促進